

# 2013年8月14日(水)第12回大会の記録 〈 最終回 〉

## 合併症になら連

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会

「合併症になら連」は、糖尿病の方やそのご家族・友人・医療関係者などが、阿波踊りを通じて交流を深め、お互いに助け合い、学びあって、健康な日々を過ごすための会です。毎年、夏の徳島で楽しく踊り、出会いを楽しみ、心身ともにリフレッシュしましょう。



- 会長から
- 第12回大会報告
- 参加された方々の声
- ご支援いただいた皆様
- 12回の歩み
- 第12回大会の1日
- 会と会則



合併症になら連ホームページアドレス  
<http://www.dm-net.co.jp/awa/>

# 会長から



西村 登喜子会長

15年前の夏、私は徳島出身の知人の招きで主人とともに市役所前演舞場の栈敷席で阿波踊りを見物していました。初めて見る阿波踊りの中に「寝たきりになら連」が目にとまりました。脳梗塞などの後遺症の障害を阿波踊りでリハビリに励んでおられる「連」でした。「寝たきりになら連」の代表が、当時「新のんき連」連長の姓億政明様でした。糖尿病の合併症を防ぐ運動療法に阿波踊りが役に立つはず、患者様の仲間づくりにも最適と思い連を結成する考えを暖めていました。平成11年10月、別の知人から姓億様を紹介していただき阿波踊りと糖尿病の運動療法が結びつけられないかとご相談しました。主旨を説明してから何度も徳島に出向き理解をいただきました。準備にかかり依頼

さんや新谷さんにも相談しお力添えをいただき、糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会が発足しました。翌平成12年2月28日の徳島新聞に、埼玉の栄養士、呼びかけ「合併症になら連」結成準備、「糖尿病患者阿波踊りを通じて支えあう」の記事が姓億様と打ち合わせをしている写真と共に掲載され、記事をご覧になった地元の城南公園内科の宮本先生、山田眼科の山田先生が協力を申し入れて下さいました。会長は埼玉、副会長は神戸と徳島、事務局を糖尿病ネットワークの創新社(東京)に置き正式にスタートいたしました。

姓億様は「踊りは健康面で大きなプラスとなる。鳴り物や踊りの指導で精一杯支援したい」とおっしゃってくださいました。姓億様は大正13年(1924年10月5日)生まれ、阿波踊りの名門「新のんき連」の連長として、また「写楽踊り」の創始者として活躍。徳島の阿波踊りに「姓億」ありとまでいわれた神様のような方でした。徳島本場では「写楽踊り」を見たくて日本全国から阿波踊りのファンが徳島に大挙して来られるそうです。海外公演は45回にもなりカナダは特にお気に入り11回遠征されたそうです。いつも観客が楽しめる踊りを求めているともおっしゃっていました。残念ながら2008年12月10日84歳でお亡くなりになりました。姓億様の遺志を継いだ阿波写楽連に合併症になら連をサポートしていただき今日に至りました。本当に長い間有難うございました。

当初は関係する病院の患者様や医療スタッフの参加者が多かったのですが、一度踊れば十分楽しい思い出になったとの声があり、リピーターも段々少なくなり最後まで参加者集めに苦労しました。今年はスタッフの努力の結果60名が暑かった徳島で踊りを披露しました。

第1回・第2回は踊り終えた後、バスで鳴門まで帰り懇親会を開いておりましたが、何とか徳島市内で懇親会・宿泊ができないかを話し合いをし、山田副会長様の友人がサンシャインホテルの支配人という関係から、第3回から最終回まで懇親会・宿泊が藍場浜演舞場の近くの「ホテルサンシャイン徳島」になりました。お蔭さまで市役所前演舞場や街角踊りを終えたあとは、徒歩でほかの阿波踊りを見物しながら、お祭り気分を味わいつつホテルに帰ることができ、懇親会も早く始められるようになりました。宿泊部の日野宜久様やスタッフの皆様のご協力のお蔭です。ありがとうございました。

阿波踊りを通して糖尿病の合併症予防の啓発にお役に立てないかと思い、「合併症になら連」を立ち上げました。その目標が達成できたか否かの評価は別にしまして今回をもって最終回とさせていただきます。

今までご協力いただきました皆様に心から感謝しお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

管理栄養士 健康運動指導士  
(埼玉県 上尾市)





# 阿波写楽連長から

## 第12回“糖尿病で合併症になら連”と一緒に踊って



左東 久史 阿波写楽連長  
(徳島県)

今年は、猛暑の中の猛暑といったような暑さでの阿波踊りになりました。今回が最終回という事で非常に残念ではありますが、打ち合わせ当初から昔の思い出話に花が咲き準備にも今まで以上に、楽しく充実したものでした。

阿波踊りは、“踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らなそんそん”といった台詞がありますが、まさに今まで皆さんが“踊る阿呆”になれた事が思い出として残っていると思います。

各地から、1年に1度徳島にお越しいただき色々な交流も楽しくでき、阿波踊りの魅力を知っていただけた事と思います。また阿波踊りの為に気力と体力作り、体調のコントロールをして参加いただいた方もいらっしゃいましたが、何かの目標に向けてするといったことも大切な事だと思います。

今回で最終回ではありますが、これからも阿波踊りに参加したい方がいらっしゃいましたら、是非私どもと一緒に参加していただけたらと思っております。また機会がありましたら皆さんと一緒に阿波踊りを楽しみましょう。その日が来るのを徳島でお待ちしております。

ありがとうございました。

(阿波写楽連長 左東久史)

## 第12回大会報告

### 糖尿病で「合併症になら連」12回を振り返って



三角健二 事務局長  
(東京都)

12回目で「合併症になら連」の幕を下ろすに当たり、改めてこれまでの記念誌を誌み返してみました。

最初の2回は、徳島市内にホテルが確保できず、鳴門市の海岸にある「鳴門グランドホテル」と「鯛丸」に宿泊した関係上、踊り終わって疲れているところ、渋滞する道を1時間余りかけてホテルまで帰り、それから懇親会というなかなかハードなスケジュールでした。しかし、一夜明けると目の前は鳴門海峡の海岸という素晴らしいロケーションで、そこから鳴門大橋に行き、渦潮をご覧になった方も多かったのではないかと思います。

この2回は、集合場所と踊りの練習に徳島市内の四国電力のヨンデンプラザ3階をお借りして行い、市役所前演舞場の踊りの後は、よんでん阿波踊りひろばでもうひと踊りしてからホテルに帰るというあわただしいスケジュールでした。

3回目からは、徳島市内のホテルサンシャイン徳島にお世話になることができ、集合場所、踊りの練習、懇親会場、宿泊が1か所で済むようになり、本当に便利になりました。

12回の中で唯一台風にあたられ、演舞場での踊りが中止になったのが2003年の第4回目です。中止になったとはいえ、その気になっている踊り手たちのエネルギーは収まることを知らず、あちらこちらのアーケードで踊りの輪が爆発していました。われらの連も西新町商店街のアーケードで練習の成果を披露しホテルへと帰ったわけですが、演舞場と違い狭く、屋根がふさがれた場所での阿波踊りは、鉦や太鼓の響きもよく意外なほどの盛り上がりを見せ、参加者の感想も上々でした。

7回目からは、それまで踊りの練習や演舞場での踊りまですべてにお世話になっていた「新のんき連」に代わり、「阿波写楽連」の皆様にお世話になることになりました。とはいっても、連の皆様は「新のんき連」の時とほとんど同じで、安心して今日までお世話になってまいりました。

2008年12月には、「合併症になら連」の発足からすべてにわたりお世話になった「新のんき連」連長、

「阿波写楽連」連長の姓億政明氏がご逝去されました。

2013年8月、12回目となる最後の「合併症になら連」にはこれまでの最高の60人の参加がありました。市役所前演舞場の踊りも懇親会也大いに盛り上がり、別れを惜しみながらの終幕となりました。

今振り返って思うのは、普段は会うこともない人が集まり、一緒に踊り、交流を深め、また翌年の再会を約して別れた多くの人たちとの楽しい思い出であり、この会の開催のために尽力いただきました関係者の皆様、資金面で支えていただいた企業や団体の方への感謝の気持ちです。

徳島の暑い夏をともに楽しんだ皆様が、その思い出を胸に、これからの人生をお元気で過ごされることをお祈りいたします。

いつか、どこかで、またお会いしましょう。

三角 健二

(合併症になら連事務局長)

## 徳島の夏と西村様

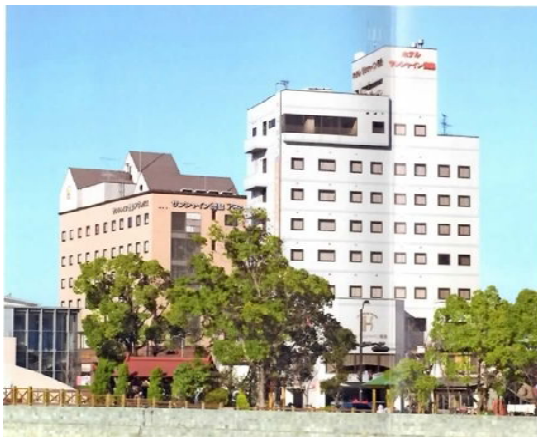
ある日、総支配人より突然の命令が私に下されました。前任者の宿泊支配人が退職のため、阿波踊りの宿泊予約を私がする様にとの事でした。この期間は宿泊予約が何十倍にもなる、徳島のホテルマンにとっては重圧のかかる期間。入社数年の私には大重圧でした。

その最中、総支配人より新たな命令が下りました。友人から阿波踊り期間の団体予約が入ったので取りまとめるようにとの事でした。更なる重圧が私にかかりました。その頃当館は団体のお客様の宿泊は少なく、個人のお客様が殆どでした。そして打ち合わせの当日になりました。私の心中は不安だらけ、そして緊張は最高潮でした。いらしたの山田様、姓億様、依藤様、そして少しばかり早口で、ほんのちょっとせっかちですが、笑顔の優しい西村様でした。私の心は西村様の笑顔で癒される事になりました。ホテルの語源はホスピタリティ。お客様を癒すのがホテルマンの務めなのに、その逆となりました。そして打ち合わせが進んでいく中、私の心はジェットコースターのように… 西村様の笑顔に癒され、少しばかり早口とほんのちょっとせっかちに翻弄される…

歳月は流れ、年始に西村様から大卒についての連絡が入り、GW前後に日帰りでの打ち合わせ、7月末の週にご宿泊されての打ち合わせと夕食のご試食。そして小まめに変更の連絡が入り、段々とこの間隔が短くなる。その流れに伴い、私のテンションがあがっていきモチベーションのUPに。この流れが私の阿波踊り全般の流れとなっていました。

西村様、長い間お疲れ様でした。当館は今では団体宿泊が主になりました。私にとっての団体宿泊は「合併症になら連」様から始まりました。本当にありがとうございました。

来年は「踊る阿呆ではなく、見る阿呆」として、ごゆっくりと阿波踊りを楽しんでください。



ホテルサンシャイン 徳島

TEL: (088) 622-2333

宿泊部 主任

日野 宜史

# 副会長から

## 糖尿病で合併症になら連 阿波踊りの会に参加して



山田 光則 山田多佳子副会長  
(眼科医)  
(徳島市)

時の経つのは速いもので、合併症になら連の活動に初めて参加させていただいてから、15年になろうとしています。徳島新聞の夕刊に掲載された西村会長の記事を読み、地元の医療機関として何かお手伝いできることはないかと新聞社に問い合わせたのが、西村さんとのお付き合いの始まりでした。糖尿病の合併症の1つであり、中途失明の主な原因である糖尿病性網膜症を、眼科医としてたくさん診ていた夫は、啓蒙活動の重要性を痛感していました。その意味でも、合併症になら連の活動は、非常に意味のあるものでした。私たちは、徳島で皆様がいらっしゃるのをお待ちしております。西村会長や副会長の依藤さんをはじめ事務局の皆様のご尽力で、毎回たくさんの方々が県外からはる

ばる徳島まで来てくださいました。台風が徳島を直撃し阿波踊りが中止になってしまった年には、せっかく遠路徳島に来ていただいた方たちにどうやって阿波踊りを体験していただくかと頭を悩ませたこともありました。結局、商店街のアーケードの中で輪踊りをしていただき、かえって観客の方たちとの距離が近くなってよかったと喜んでいただきました。

毎回毎回、いろいろな思い出がありますが本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。地元にて当たり前のように思っていた阿波踊りの素晴らしさを、この会を通じて参加者の皆様に教えていただいたような気がします。ここに姓億さんのお姿がないことだけが、唯一の心残りです。

今年で最後を迎えることになりましたが、もしまた徳島の阿波踊りにいらっしゃる機会がありましたら、ぜひお声をかけてください。お待ちしております。長い間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

(山田 多佳子)

## 糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会の最終回を終えて



依藤津世子副会長  
管理栄養士・  
健康運動指導士  
(兵庫県 神戸市)

最終回に当たり12回を振り返ってみたいと思います。

15年前、私が丁度退職した時、西村会長より「糖尿病で合併症にならないための運動療法として、阿波踊りの連を立ち上げたいと思っている」と聞かされ、健康づくりに一番大切なのは、楽しく自然体で身体活動レベルを上げることと考えていた私は、その時は何気なく「お手伝いします」と言ってしまったことがその始まりでした。西村会長のパワーと行動力についてきたようなもので、実際は糖尿病患者や境界型の参加者はそんなに多くありませんでした。それでも必死に初心を訴え、テレビ、新聞、雑誌等で取り上げられるなどの後押しをいただきながら続けてきました。

「新のんき連」姓億連長の全面的なバックアップのお蔭で連は立ち上げられたものの患者対応のこと、宿泊施設、練習会場、衣裳の準備、提灯、大うちわ、人集めなどなど… 暗中模索の中で最初の年を迎えました。しか

し当日は関西テレビのライブ中継を受け、何が何だか解らないうちに1回目は終了しました。参加される方にもっと徳島観光の案内をした方がいいのではと反省しながら、3回目から今の「ホテルサンシャイン徳島」にお世話になり、宿の心配はしなくてよくなりました。インターネットで呼びかければ人は集まるものと思っていたまし



たがそうではありませんでした。人集めは最後まで苦労しました。

車椅子の患者さんが参加された時は、帰りまで一緒にとても気をつかいました。大雨で演舞場での踊りが中止になった時、ホテルの中で踊るのかなと思いつつ徳島に向かいましたが、アーケードの中で踊ることになりました。でも、今思い返せば一番印象深かったように思います。栈敷席からでなく、観衆の方の同じ目線で踊れることと、最後の乱舞を観衆の方と一緒に夢中になって踊れたことが良かったのかも知れません。(まさに無の境地)雑誌の取材を受けた時も、姓億さんの追悼のテレビ取材を受けた時も、振り回されましたが、それなりに充実した大会になりました。いつの間にか2か所の演舞場で踊るようになり、踊りも上達してきたものの(?)移動が大変で、宴会の時間との調整に苦労しました。演舞場で踊る時間帯は、阿波写楽連長の取り計らいで、疾病を持つ特別の福祉の連として特別配慮していただいているので有名連のすぐ後に踊ることが可能なのです。

ここ2～3年はマンネリ化感もありましたが、参加される方々のお蔭で楽しい宴会も催していただき趣の異なった楽しみもできました。

仕事とは全く異なった次元で夢中になれたことは確かです。その間、健康運動指導士の資格も取りました。

裏方のほんの一面ですが15年間を振り返ってみました。何事も終わりは寂しいものですが延べ570人余りの参加者の方々が、今後どこかで話題として広めていただき、健康づくりの今後に繋がればと期待しています。

準備等あまりにも負担が多い中、西村会長のサポートも十分出来ず終わりを迎えることは大変心苦しく思っています。お世話になった連の方々、山田先生、宮本先生、徳島新聞社、糖尿病ネットワーク、書写病院前田理事長、リピーターの方々、その他多くの方々に支えられて12回(途中2年休会)も開催することができました。ほんとうにありがとうございました。

最後に阿波踊りに出会えたことに深く感謝しています。(依藤 津世子)



山田眼科院長

依藤副会長

三角事務局長

山田副会長

西村会長

左東連長

ス タ ッ フ ー 同

# 参加された方々の声

## 糖尿病で「合併症になら連」最終回に参加して



稲田 弘孝  
(大阪府 豊中市)

阿波踊りから早1か月余り、徳島の人々もすっかり日常的な生活を過ごされていることでしょう。あの4日間は、参加された方はご存じのとおり、街中どこを見渡しても阿波踊り一辺倒で、現実を忘れさせてくれる極めて非日常的な4日間です。

私は、会社が糖尿病で「合併症になら連」のスポンサーをさせていただいてきたご縁で、11年連続で参加させていただきました。

私達は大人になるにつれ、物事に身構え、体裁を気にするようになり、日頃なかなか自分をさらけ出して「阿呆」になることは無いわけですが、この4日間は私にとってひととき現実を忘れ「踊る阿呆」になることができる大変よい機会でした。今回で最終回ということになると、今後は日々「少し阿呆」に

なれるよう心掛けたいと思います。

これまでの西村会長、依藤・山田両副会長、三角事務局長、そして阿波写楽連の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。（稲田 弘孝）



## 「踊る阿呆に見る阿呆 同じ阿呆なら踊らにゃソソソ！」



岡田 理枝  
(大阪府 豊中市)

今年、初めて阿波踊りに参加させていただきました。

日本三大盆踊りのひとつ、400年もの歴史を持つ徳島県の伝統芸能、全国・全世界から多くの人々が集まる阿波踊り！！

踊りを通じて、みんなで阿呆になり、食べ、飲み、笑い本当に楽しい時間でした。準備や段取り等をしてくださった合併症になら連事務局の方々、着付け・踊りの指導をしてくださった阿波写楽連の方々、一緒に阿呆になってくださった方々に心から感謝申し上げます。

これからも、私は踊る阿呆でいたいと思います。有難うございました。

（岡田 理枝）





## 感謝・お礼・お願い



葛本 優斗 葛本 喜八郎  
(北海道 名寄市)

北海道から徳島は遠く、参加は大変ですが楽しみでもある阿波踊りに、今年は孫と参加し、楽しいひと時を過ごさせていただきありがとうございました。孫共々喜んでいきます。

「合併症になら連」は今年が最後と聞き、大変寂しく残念に思っています。

今日まで「連」の運営にご苦労されました、会長をはじめ役員、事務局、おどりのご指導をいただいた阿波写楽連、サポートいただいた関係者の方々に、心から感謝とお礼申し上げます。ありがとうございました。

「連」の形は変わっても復活を願っています。北海道にも、合併症にならないように、踊る阿呆がいますので、是非「連」の復活をお願いします。

長い間大変お疲れ様でした。楽しいひと時を過ごさせていただきありがとうございました。感謝！

(葛本喜八郎)

## 踊る阿呆に見る阿呆



川田 一男 早川 鈴一 川田美枝子 早川 春子  
(愛知県 大府市) (愛知県 東海市)

あの有名な四国徳島の夏のメジャー級の夏祭りに参加の話は、昨年10月の安曇野ゴルフ会からの発端でした。

その日が来た。私の家内達は年齢のことも忘れて踊る事に懸けているように思えた。我々男性は他の地で体調を崩して倒れることが心配で同行することとして、見る阿呆に徹することに決めた。

阿波の徳島は東映の「鳴門秘帳」を思い出す。思い出す年代で、とても遠い地と思っていました。しかし江戸時代から何百年を経て近代的な明石大橋、大鳴門

橋、天下の鳴門の渦潮、あばれ川吉野川を一跨ぎ。阿波の国、城下に侵入し阿波の殿さまも何の手立てもできない時代。しかし殿様はエライ。阿波踊りを治世に活用し、後世の国の財源にしてしもうた。

阿波踊りの特訓は写楽連の先生に合格。合格とも言えないが、まずまず見える程度で許してもらい5時からの出陣、いざ本番。市役所前演舞場で有名連が何組か見事な踊りを披露し通過。これぞと思った瞬間を続けさまにシャッターを押す。気がつけば何十枚。

我々「合併症になら連」の順番。早い出演、さすが連の皆さん、特訓の遣り甲斐あって、我々の見る阿呆の前に来た皆さん、真剣で見事に踊り通過していった。家内や友達の皆さんも倒れるんじゃないかと心配していたが、終わってしまうと踊る阿呆も見る阿呆もほっとしていたようだ。皆さんの踊り終わった時の顔は素敵だったよ。

合併症になら連の皆様のこれからのご健康をお祈りいたします。西村会長様有難うございました。

(川田 一男 美枝子)



## 阿波踊りに参加して

ああ楽しかった、恥ずかしかった、疲れた。わあーこれが私の感想です。初めての体験でした。前の人についていだけで精一杯でした。足がもつれて、横の列もメチャメチャ・・・。「合併症になら連」の皆さんですと紹介され、並んだ時は小学校の子どもみたいになりました。緊張して手を上に挙げて動き出しました。エライヤ ッチャ エライヤ ッチャ ヨイヨイヨイヨイ。栈敷席から「春ちゃん」と声をかけられ、びっくりして目を丸くした写真がもうすぐ出来上がってくることでしょう。

何もかも(太鼓・鉦・三味線)好きな音です。チャンカチャンカ イチニーイチニー。リズムが良いし、揃って踊ればなお楽しいということでしょうか！ 本当にお世話さまになりありがとうございました。(早川 春子)

## 最終回に参加して



菅野 節子 菅野 眞記  
(神奈川県 横浜市)

長い間お疲れ様でした。

第12回が最終回ということで、昨年に引き続き、横浜市金沢区でご近所だった三角さんご夫妻と娘さん、同じく岡田家の娘さんお二人と共に計7人で参加させていただきました。やはり美人が揃うと華やかになるものです。このためか、昨年以上の大変な盛り上がりで、心に残る素晴らしい阿波踊りとなりました。阿波写楽連の左東連長を始めとする全員が一体となった練習これぞ阿波踊りという模範演技。市役所前の演舞場での本踊りと道路での輪踊り、ホテルに帰ってからの懇親会での誠に息の合った抱腹絶倒の「南京玉すだれ」、そして最後の阿波踊り。何れも誠に楽しい踊りでありました。四国徳島の阿波踊りの原点を少しは垣間見ることができたような気がします。

す。今回も参加させて頂いて大成功でありました。これも西村会長(並びに、支えて頂いたご主人様)、山田副会長、依藤副会長、三角事務局長を始めとする創新社の皆様、左東連長、富川指導員を始めとする阿波写楽連の皆様(誠に丁寧な着付けをして頂いた若人)、林カメラマン、その他数多くの皆様の大変なご準備とお気遣いの賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。

今回で最終回となり、誠に残念であります。しかし、三角事務局長の奥様からお聞きしましたが、西村ご夫妻のご苦労は大変だったようであります。例えば、埼玉の自宅と徳島迄の距離を荷物を運ぶための往復(2回往復したこともある由)、会場整備、書類等の準備(色々な場面でお気遣いが感じられました)等大変なご努力をされたとお聞きしました。このような状況に鑑みて、今回の最終回は致し方のないことだと思いうに至りました。寧ろ、12回も続けられてこられた大変なご苦労、ご努力に対して心より拍手をおくりたいと存じます。でも、いつの日か、また皆様と阿波踊りで再会を祈念しております。

重ねて、西村会長をはじめ、関係者の皆様に感謝申し上げます。有難うございました。(菅野 眞紀)



## 4回連続「合併症になら連」に参加して



木内 紀子  
(東京都 杉並区)

第12回の「合併症になら連」に参加し、合計 4 回、「連の一員」として踊らさせていただきました。

通常の連では、踊る人も鳴り物担当の人たちも、何ヶ月も前から猛特訓をします。1日限りの練習で演舞場に繰り出せるこの「合併症になら連」を、徳島県出身の私は、とてもラッキーな場だと思い、毎回参加させていただいておりました。

振り返れば、一度目は大変緊張しました。が、回を重ねる毎に気持ちがほぐれ、1年ぶりにお会いする方々との会話等も楽しめるようになっていきました。「踊ること」だけでなく、集合、練習、本番を踊り終えたあとの食事会、入浴タイムにいたるまでの一連の流れそのものを満喫できたのも、ひとえに西村代表ご夫妻をはじめとする事務局のみなさまのご尽力、阿

波写楽連のみなさまの丁寧なご指導のお蔭でした。4年間、本当にありがとうございました。

アーティストのグループが、何年かたって「再結成」することが時々あります。もし「合併症になら連」を再結成することがあれば、ぜひまた参加させてください。(木内 紀子)

## 阿波踊り「合併症になら連」に参加して



菊田 晴代  
管理栄養士・健康運動指導士  
(神奈川県 横浜市)

徳島空港に降り立つと、灼熱の熱気がムンムンしていて、少し離れた場所から鉦と太鼓の音が聞こえてきた。空港の表玄関で阿波踊りのデモンストレーションがあり、徳島に着いたという実感がする。直ぐにバスに乗り、宿泊予定のホテルに到着。阿波写楽連の方により手際よく着物の着付けが済み、ホテルの広間で阿波写楽連の方々のレクチャーを受けて、バスで街に繰り出した。目を見張るような熟練した地元の連に交じって、私達の「合併症になら連」も観客席の機敷の前を踊り抜けて行く。ほんの数分間のことだが、華やかさ、緊張、汗、騒音、いろんなものがごちゃごちゃと私の周りを駆け巡って行く。街中を踊り抜けて、ホテルに戻ると、一息ついてから宴会の開始。この宴会が一番の楽しみなのです。1つは出てくる料理の食材の豊富さで、首都圏ではなかなか口にできないものもあり

ます。今年は太刀魚の刺身を初めて食べました。そしてもう1つは出し物。今年は南京玉すだれで、その熱演に顔に笑いじわがいっぱいできました。

今年が12回目で、この連は解散とのこと。毎年楽しみにしていたので、寂しい限りです。これまでの準備の大変さを思うと、関わってくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

もし同窓会が催されて皆様にまたお目にかかることが出来れば非常にうれしいです。

本当にありがとうございました。(菊田 晴代)







児島 政子(管理栄養士)  
果歩 舞耶  
(兵庫県 三木市)



新谷 佳子 新谷 文利  
管理栄養士  
(兵庫県 篠山市)



## 阿波踊りに参加して

糖尿病で「合併症になら連」には、約10年ぶりの2回目の参加です。最終回と伺い残念な気持ちでいっぱいですが、今回親子3人(娘2人)で参加できたことを大変嬉しく思います。

子供たちは難しかったと話していましたがとても楽しんでいました。こうやって参加できたのも、西村先生をはじめ、多くのスタッフの皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

これからも、人と人との繋がりを大切にして、管理栄養士としての役割をしっかりと果していきたいと思います。(児島 政子)



## 阿波踊りに参加して

第12回阿波踊り大会は、私にとって感慨深い大会になりました。

風邪気味の私は、篠山の自宅から徳島に向かって行くにつれ、段々体調が悪くなりました。ホテルに着き、衣裳を着替えた時は喉まで痛くなり、踊るのは無理かなと思いました。しかし、最後の踊りだからと思って踊ろうと思いました。また、楽しもうと思いました。

市役所前の演舞場を踊り終えた後、体調は少し楽になっていました。その時、ふと感じたことがありました。生きるとは、今を楽しく過ごすことだと思いました。

今年で60歳(還暦)になります。今までは真面目だけが取り柄で、面白味のない男でした。しかし、今後は人生を楽しもうと思います。私にとって、ターニングポイントの大会になりました。第1回目から参加させて

いただきましたが、そこで出会ったすべての人々に感謝します。(新谷文利)

## 第12回(最終回)を終えて

振り返れば、西村さんと初めて徳島へ。阿波踊りでは雲の上の人と言われていた「姓億さん」を訪ね、連を立ち上げる最初の出会いだったのかと思うと、すごい事に立ち会うことが出来たのだと今更に感激しております。これを期に毎回参加させていただきました。始めのころは、踊りの形ばかりにとらわれ、踊り終えたらホッとして……の繰り返しでした。

参加するだけの私達を毎回蔭でささえてくださった皆様に本当に感謝の気持ちで一杯です。特に西村家の皆様は、毎回数日前から準備をしてくださり、また終われば来年のために…と私たちが想像もできない位の仕事をこなされていた事を最近知り、これまで続けられたのは西村家の方々、スタッフの方々の努力の結果だと思っています。

本当にありがとうございました。(新谷 佳子)



## 阿波踊りに参加して



多田 碩孝      多田 玲子  
(兵庫県 芦屋市)

依藤副会長のご紹介で、夫と友人夫妻と4名で参加、阿波踊りを体験させていただきました。4名のうち3名が生まれて初めての体験で、プロからの手ほどきがあるとはいえ、衣裳をつけて市役所前演舞場で踊るというドキドキ体験は、なかなか他では味わえないものでした。実際、手と足を動かすのが精一杯で、掛け声まで正直手が回らなかったのですが、演舞場からの帰りの街角踊りでは、ようやく楽しんで踊る阿呆になれたように思えました。「ヤットサー」「ヤットヤット！」という掛け声は、やり遂げた自分をほめる気持ちで「やったさあ！」「やった、やった！」と自分流に勝手に変えて連呼していました。

今回で最終とのこと、長年にわたりこのような会を運営されてこられた役員の方々のご尽力に敬意を表するとともに、最終回をご一緒させていただいたことを、心より感謝いたします。

最後に、西村会長、依藤、山田副会長にエールを！「やったさあ！」 (多田 玲子)



## 阿波踊りに参加して



反保 良子  
(大阪府 高槻市)

今回で二度目の参加でしたが、子供のころから、「踊る阿呆に見る阿呆」といわれてきた、阿波踊りの「踊る阿呆」になれたこと。今までの人生に、素晴らしい思い出を刻むことができました。このような楽しい行事に誘っていただいた水野さんにありがとう。

西村会長さんはじめ、阿波写楽連の皆さん、地元のお世話していただいた人に感謝の気持ちでいっぱいです。今年で最後になるのは非常に残念です。機会があれば、次は、「見る阿呆」になって前夜祭を見学してみたいと思っています。(反保 良子)





## 第12回糖尿病で「合併症になら連」 阿波踊り大会に参加して



SMAC 辻本 利雄  
(東京都 台東区)

暑がりの私は、夏、旅行に出ることはまずなかった。今回、強いお誘いを受けて初めての地阿波徳島へ踊りの見物に出かけた。連れは皆空路での参加であった。飛行機が苦手な私は神戸に前泊し、当日、高速バスで現地入りした。お盆と阿波踊り期間で車内は満席。そして降り立った徳島駅前には炎暑の真っ最中。荷物を持つホテルまでの10分の歩きは溜息と後悔。やっとホテル入口。そこに丁度空路組。中に入る。空調でほっとする。ロビーで目にも爽やかなゆかたの女性の受付。西村会長の丁寧なご案内。なぜかテンションが上がってくる。着替え室のドアを開け中に入る。ここでまた直ぐに親切なご挨拶を受ける。昼食後、ゆかたへの着替え。この時またまた丁寧な介助。着替えたわが身に嬉し、恥ずかし、いささか興奮。

踊りの練習。指導の「阿波写楽連」の方々。親切丁寧だけでなく、おだて上手に乗せ上手。見物に徹するつもりの私も「豚もおだてりや木に登る」的に、ついつい踊ってしまった。リズム感なくても下手は下手なりに、周りは気にせず、踊れば勝ちだよ。であった。阿波写楽連の方々の模範演技。にこやかに軽やかに愉しげに踊る姿は、今、ここにいる感動を味わうには十分であった。

夕方からの演舞場での本番。「踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら・・・」であった。結果は、わが身の体力を痛感した。踊りの後半は足が前に出ない、遅れる、列が乱れる。早く着きたい。やっと到着。そして立ち眩み。でも、楽しい大満足。

夜、懇親会。渴いた喉にビールがうまい。余興の「南京玉すだれ」に腹筋が痛い。踊りでの足腰の痛み。湿布薬を持ってこなかったのを後悔しつつお風呂に入った。なぜか阿波踊りが有名なのか少しわかった気がする。(辻本 利雄)





### 3回参加して思ったこと



徳田 昌子  
(東京都 品川区)

一昨年から連続3回させていただき、一番驚いたのは会長様を含む事務局の方の丁寧な物事の進め方です。私は元々がさつな性格の上に現在の仕事で営業職のためスピードが要求され、何でも省略する癖がついてしまった気がします。でもこの事務局の方々は、例えばこの感想文を書く要請ひとつにしても、それぞれの返信用封筒に原稿用紙1枚ずつ付けて頂ける丁寧さです。お借りした衣裳も一人ひとり一式を全部一つの紙袋に入れてあり、着た後に何を借りているか全部チェックして返せるように、入っている品物名が全部書いてあります。泊まらせていただいたホテルでも夜に2回も副会長様が連絡事項を伝えに来ていただき、皆様何時までお仕事なさるのだろうと有難く感じました。

その爪の垢を煎じて飲み少しでもがさつな性格が治ればよいが、と思わされた素晴らしい経験でした。有難うございました。(徳田 昌子)



### 最終回に参加して



中谷 孝  
(大阪府 東大阪市)

今回が最後ということで、仲間をたくさん連れて参加したかったんですが、結局森井さんと2名の参加になりました。昨年は打ち上げで獅子舞を披露し、つたない芸でしたが皆様に盛り上げていただきとても楽しかったです。今年は南京玉すだれがあるとのことで、安心していましたが、現地に来て意外と獅子舞のリクエストがあり、こんなことなら獅子舞を持ってくればと反省しています。ただ、今年の茂居、吉田、近藤トリオの玉すだれ、涙を流して笑ったのは久しぶりという位、最高に盛り上がりましたね。とても獅子舞の入る余地がありませんでした。3人にありがとう。重ねてお礼申し上げます。

さて12年間、この素晴らしいイベントを最大の努力で支えてくださった、西村さん、だんなさん、スタッフの皆様本当に有難うございました。最後の3年間参加しましたが、素晴らしい思い出を有難うございました。(中谷 孝)





## 糖尿病で「合併症になら連」に参加して



中野 久美子  
管理栄養士・  
ケアマネージャー  
(神奈川県 鎌倉市)

初めて神奈川県から参加しました。私は徳島県出身で幼い頃から阿波踊りに親しみながら育ちました。毎年旧盆にあの弾むようなリズムを聞くと、いつかもう1度踊ってみたいという想いがありました。今回その夢が叶いました。期間中、西村会長はじめ事務局の方の細かいお心遣いが随所に感じられ感謝しています。水分補給についても練習中に何度も声を掛けていただき、名産すだち飲料をはじめ色々な種類の飲み物を提供していただき、また本番の演舞場出場前にもお水をご用意くださるなど熱中症予防対策は万全でした。

スケジュールについても初めてでもよくわかるような印刷物をその都度配布していただき迷わずに行動をとることができました。

今回は最終回とのことですが、何もかも忘れて思いきり、踊った燃えるような暑い徳島の夜を忘れません。阿波写楽連長様からいただいた表彰状はとてもうれしい宝物です。ありがとうございました。（中野 久美子）



## 糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会に参加して



西 千加子  
(京都府 京都市)

旧友に勧められ77歳にして“初めの終わり”の覚悟で参加させていただきました。まず感心させられましたのは、この会の目的が具体化されていたことです。1つ目は高齢化社会が進んでいる現在、いかに健康体老後を送るかという今日的課題が示されていました。2つ目は、周到な計画と準備がなされており、当日夜の踊りの披露までをスケジュールに添って見事に展開された事でした。3つ目は、何と言っても「阿波写楽連」の皆さん方の素晴らしい模範踊りでした。生まれて初めて目の前で見た歴史を誇る本場の熟練された阿波踊りは、私にとっては圧巻そのもので大変感激をいたしました。

最後はやはり皆さんと一緒に市役所前演舞場での本番の踊りの披露でした。立派な桟敷と大勢のお客様にびっくりし緊張しましたが二拍子のリズムに乗っ

て楽しく踊ることができました。

本当に有難うございました。心からお礼を申し上げ私の感想文といたします。（西 千加子）

## 阿波踊りに参加して



藤本 浩美 藤本裕之  
薬剤師  
(兵庫県 神戸市)

3回目の参加となる主人と、2年ぶり2回目の参加となる私は、徳島ラーメンで腹ごしらえをして、ホテルに入りました。私は練習の間に足が痛くなり、最後まで踊れるか不安でした。練習では足が揃っていると褒めの言葉がありましたが、さすがに本番では会場とその雰囲気焦ってしまいました。でも懇親会の最後まで楽しく踊ることができました。

12回(15年)にわたり、西村会長をはじめとする事務局関係各位の多大なるご尽力に感謝いたします。「合併症になら連」に誘っていただかなかっただら、阿波踊りに参加し自分が実際に踊ることはなかったと思います。

「阿波写楽連」と一緒に踊る事は、見る楽しみ、踊る楽しみの両方を知ることができました。また、この機会に、徳島を始めとする四国各地を旅行し、いい思い出となりました。またいつか皆様とお会いできる日が来ればと思いながら、テレビで映る阿波踊りのニュースを見るたびに思い出すことでしょう。(藤本 浩美)



## 今年も大満足の阿波踊り



本郷 民子  
健康運動指導士  
(埼玉県 上尾市)

5回目の参加となった今年の阿波踊り、糖尿病で「合併症になら連」で踊るのもこれで最後かと思うと、稽古の段階から自然と力が込み上げて来るようでした。

当初は、他の予定と重なり、今年は参加を見送るつもりでいましたが、会長より今年で最後とお聞きし、何とかスケジュールを調整。ギリギリの申し込みだったので日帰りで飛び入りの参加でした。

徳島で過ごした時間は短かったのですが街全体が熱気であふれる中、今年も汗だくになって楽しく踊ることができました。

また今回は、発足当初からの連の歩みや活動などを知ることが出来改めて「連の絆の大きさ」を感じました。その仲間たちと、連の一員として踊る事が出来、とても幸せです。そして誇りに思います。

毎回楽しく参加させていただいたので連が解散するのはとても寂しい気持ちで一杯ですが、私の生涯の中で、愉しかった思い出の1ページとしてこれからもずーと心に残っていく事と思います。

最後になりましたが、会長ご夫妻をはじめ各関係者の方々に深く深くお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。(本郷 民子)





## 阿波踊り最終回



水野 美子  
(大阪府 高槻市)

5年連続の私の夏の一大イベントがついに最終回を迎えてしまいました。今回の懇親会では同じテーブルの方(すみません、お名前を失念・・・)と5年前の街角踊りの熱気を懐かしく振り返りました。また、山田さんからは今も小学生の時から踊りに参加する仕組みができていて、近隣の都市それぞれで阿波踊りが少ずつ違う事を知りました。

皆様との素晴らしい交流に感謝します。よい思い出を胸に、阿波写楽連さん仕込みの阿波踊りを機会を見つけては披露してみようと思います。

また、第1回からの記録を読み、糖尿病の方が何人も参加されていたことなど「連」の変遷を感じることができました。長きにわたりお世話くださいました西村様ご一家を始め関係者の皆様、ありがとうございました。

翌日は阿波十郎兵衛屋敷で人形浄瑠璃に浸り、私の合併症になら連最終回を締めくくりました。 (水野 美子)





## 阿波踊り大会に参加して



三谷 英子  
(大阪府 大阪市)

大阪からバスで“いざ”徳島へ。

ホテル到着後、受付、衣裳に着替えて交流会場にて参加者全員の自己紹介。その後「阿波写楽連」の方々の模範踊り。早速練習開始で、阿波踊りは足と手が同時に出しますとの説明の後、はじめは足の運び方、次は手とひとつひとつ丁寧に時間をかけてのご指導をしていただきました。いざ、市役所前演舞場へ出発。本番では練習の成果が出てとても楽しく踊るアホーになりきり大いにエンジョイすることができました。

「懇親会」では、おいしい料理に舌鼓、全員で最後の阿波踊りは、アルコールも入り最高の出来だと自画自賛。

最後になりましたが、大会実行委員長、同事務局の皆様本当にお疲れ様でした。 (三谷 英子)

## 最後の阿波踊りに参加して



村中 哲江      村中 日出男  
(愛知県 春日井市)

一昨年、その前の年に参加した家内に誘われて、初めて踊りの輪に加えて頂きました。そして、この会の和やかな雰囲気忘れられなくて、昨年も夫婦で参加する積りが生憎、新盆の法要と、町内会の役の関係で地元の盆踊りの準備が重なり出られなくなりました。そこで、今年こそはと意気込んでいたところに、今回が最後の開催という案内を頂き、益々8月14日が待ち遠しくなりました。二年前には交通のルートを選択を誤り大遅刻で、皆さんに大変ご迷惑をおかけしました。今年は3時半起きで会長の西村さんの助言通り、新幹線で新神戸に出てバスに乗り換えしました。目立った渋滞もなく11時前に徳島駅に着いたおかげでゆっくりと昼食をとり、会場のホテルには昼前に入

ることが出来ました。

午後、7階の交流会々場に入ると、やはり最終回のせいか参加者が多いなと感じました。阿波写楽連の踊りは相変わらず見事なものでした。また、練習では今回が初めてという方が何名かおられましたが、参加の皆さんをリラックスさせながらポイントをきっちり教え込む、阿波写楽連の教え上手には再度感心させられました。私は二度目なので踊りの上手下手は別にして、手足の運び方がわかっているせいか余裕が持てたように感じました。今回は演舞場に待機する時間が早く、日没前の最も暑い状態の中で皆さん大変だったと思います。本番の演舞場では緊張してしまい、表情や踊りの硬さは否めませんでした。やはり、そのあと街角で皆さんと輪になって踊った時が、最高にたのしめたしノリもよかったように思います。そして、恒例のホテルの宴会場での踊りも、少し千鳥足でしたが楽しく踊れました。こんなに楽しい会が今年で終わりというのは、いかにも残念で淋しくてたまりません。

地元の厳しい練習を積んだ連の踊りは素晴らしいの一語に尽きます。それに引き替え「合併症になら連」のような一夜漬の素人のよそ者集団が、有料の棧敷席の観客の前で踊れるなんて夢のようで、改めてありがたいなと思いました。

これまで十数年間の長きにわたり和やかな会を運営頂いたスタッフの皆さん、全国から踊る阿呆になりた



いと集まった素人の踊り手達を親切にご指導下さった阿波写楽連の皆さん、本当にありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

ところで、今後この会を例えば「糖尿病が治った連」とかに名称を変えて継続することはできないでしょうか？ スタッフの方々は大変でしょうが、もし実現するようなら、是非！毎年駆けつけたいと願っているのは、決して私共だけではないと思っています。（村中 日出男・哲江）



## 生きているから出会える幸せ



茂居 理智子  
(大阪府 堺市)

まずは、BBZ(バーバーズ)の南京玉すだれを皆様の温かい見守りと声援の内に演技できました事お礼申し上げます。笑顔と笑いのお薬を配達出来ましたでしょうか。

生きて行く事は誰かと出会い支えあいながら日々過ごして行く事だと思います。新しい出会いに絆という結び目を繋ぎ、気付き、感謝してこそ幸せな人生だと信じています。その新しい出会いがこの「合併症になら連」の阿波踊りでした。

糖尿病にならない為に1日2万歩を目標に頑張っていた主人の姿を思い出しながら、踊る阿呆になれたと思います。参加されていた方々が、互いに気遣い助け合って踊る姿。人は皆あたたかいから自分の病にも正面から立ち向かえるのだと思いました。

この新しい出会いが、いつまでも私の大切な宝物になったと確信しております。ありがとうございました。（茂居 理智子）





## “阿波踊り！ 初体験に感謝です”



安田 俊道  
薬剤師  
(東京都 練馬区)

会長西村登喜子先生及び事務局三角健二氏から、徳島本場の阿波踊り「合併症になら連」最終回に参加しては！とのお誘いを受けて、初体験ながら阿波踊りに挑戦いたしました。

徳島市へ同行する三角氏に、参加者の中での高年齢を伺うと、たぶん安田さんが一番の高年齢(78歳)では！との返事を頂き、踊れる自信がやゝ失われ自重しながらの踊り参加になりました。然しながら練習中に於いて年甲斐もなく女性群の踊りの「腰のゆれと足揚げ」にひかれ、すごい色気の発散を受けて青春を取り戻す気分になり、元気いっぱい踊る事ができました。

そして市役所前演舞場の第1回目の踊りでは、踊りへの自信も得られ、栈敷席の皆さんの様子も伺える余裕も出てきて、初体験ながら大満足！

感謝・感謝です。関係各位には、心より感謝申し上げお礼の気持ちです。

本当にありがとうございました。 (安田 俊道)



## 私の阿波踊り



横山 正子  
(兵庫県 神戸市)

7年ぶりの2回目の参加でした。前回は妹夫婦(夫は写真係)とで、次の日も4人で阿波踊りを満喫し、嬉しい思い出の1つになりました。私はその後、その時期は多忙になり「そのうちにぜひ」と、依藤先生のお誘いや郵送されてくる案内に心揺さぶられながらも見送ってきました。妹はその後に、姑の法事がその日と重なるということになりました。

今年は何が何でもと参加しましたが、これまで二度しか手を通すことのなかった衣裳に「いっぱい活躍させなくてごめんね」と言いながら、心をこめて手入れをしました。この時なぜか「合併症になら連」の方たちに対して、せっかくの機会を下さったのに・・・という気持ちと重なりました。

今後は、機会があれば、「阿波踊りできます！」と言いたいと思っています。西村さん、依藤先生、事務局やお世話になった連の方たち、この機会にお知りあになった方たちに感謝いたします。 (横山 正子)





## 楽しかった阿波踊り



吉田 宣子  
(大阪府 大阪狭山市)

「ヤットサーヤットヤット」全身から吹き出る汗にもかまわず、快感さえ覚えた。「阿波写楽連」の皆様方のご指導のもと、本年最終回となる、徳島での阿波踊りを精一杯の力を振り絞って、大観衆の栈敷席の前を緊張しながら笑顔を作り通り過ぎると、「ヤッター」と。達成感を味わうことが出来ました。

近藤さんのお誘いでこの連に参加させていただき、多くの方々と親しくお話をさせて頂きました。

又、懇親会では恥ずかしながら大阪のオバチャンのメンバーでお笑い南京玉すだれを披露させて頂き楽しいひとときをすごさせていただきました。

日本三大祭りの一つでもある真夏の夜の阿波踊りも私達は今回が最後の参加となり一抹の寂しさを感じますが、この徳島の大舞台で踊るアホウになれたのだと、嬉しく思い返しています。

この企画開催にご尽力くださいました会長様始めスタッフの皆様本当にありがとうございました。深く感謝申し上げお礼の言葉といたします。 (吉田 宣子)



## ご支援いただいた皆様

第12回糖尿病で「合併症になら連」阿波踊り大会にご賛同・ご協賛いただきました

企業・団体様に心より感謝いたします。ありがとうございました。

城南公園内科(徳島市)

山田眼科醫院(徳島市)

医療法人財団清良会書写病院(姫路市)

野澤産業株式会社

糖尿病ネットワーク

NPO シニア会

サラヤ株式会社

サラヤ健康家族 [kenkoukazoku.net](http://kenkoukazoku.net)

# 糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会12回の歩み

## 12回の参加者数合計 : 569人

- 第1回 2000年8月14日 参加者46人  
踊り : 市役所前演舞場⇒よんでん阿波踊りひろば  
支援連 : 新のんき連 集合 : ヨンデンプラザ3階ホール  
宿泊 : 鳴門グランドホテル(鳴門市)
- 第2回 2001年8月14日 参加者40人  
踊り : 市役所前演舞場⇒よんでん阿波踊りひろば  
支援連 : 新のんき連 集合 : ヨンデンプラザ3階ホール  
宿泊 : 鯛丸(鳴門市)
- 第3回 2002年8月14日 参加者50人  
踊り : 市役所前演舞場  
支援連 : 新のんき連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第4回 2003年8月14日 参加者49人  
踊り : 台風で演舞場での阿波踊りは中止⇒西新町商店街のアーケード  
支援連 : 新のんき連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第5回 2004年8月14日 参加者40人  
踊り : 市役所前演舞場⇒藍場浜演舞場  
支援連 : 新のんき連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第6回 2005年8月14日 参加者47人  
踊り : 市役所前演舞場⇒藍場浜演舞場  
支援連 : 新のんき連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第7回 2008年8月12日 参加者43人  
踊り : 市役所前演舞場⇒藍場浜演舞場  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 2008年12月 : 阿波写楽連 姓億政明連長ご逝去
- 第8回 2009年8月12日 参加者44人  
踊り : 市役所前演舞場⇒東新町アーケード  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第9回 2010年8月12日 参加者55人  
踊り : 市役所前演舞場⇒アミコ市民広場  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第10回 2011年8月14日 参加者53人  
踊り : 徳島城公園で練習踊り⇒市役所前演舞場⇒街角踊り  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第11回 2012年8月14日 参加者42人  
踊り : 市役所前演舞場⇒路上での街角踊り  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島
- 第12回 2013年8月14日 参加者60人  
踊り : 市役所前演舞場⇒路上での街角踊り  
支援連 : 阿波写楽連 集合・宿泊 : ホテルサンシャイン徳島



# 第12回大会の1日

8月14日(水)

12:30 受付開始「ホテルサンシャイン徳島アネックス」

新館3階ホール

受付後、阿波踊りの衣裳に着替える

(専門家による着付け)

13:30 新館7階ホールに集合

交流会

「阿波写楽連」連長 ご挨拶

「阿波写楽連」の模範踊りを見物

「阿波写楽連」のご指導で阿波踊りの練習

軽食をいただく

全員で記念撮影

17:30 市役所前演舞場へホテルのバスで移動

18:20 市役所前演舞場で待機(他の連と交流)

18:30 有名連パレードのあと、「合併症になら連」

の踊りスタート

近くの路上での輪踊り

20:00 ホテル3階宴会場で懇親会開始

「阿波写楽連」左東連長の講評・ご挨拶

参加者同士の交流

3回目の阿波踊り

22:00 解散 お疲れ様でした



交流会



阿波写楽連

8月15日(木)

7:00 順次、朝食

本番への練習

9:00 希望者のみ、ホテルのバスでJR徳島駅までお送りしました

10:00 チェックアウト 近くに阿波踊り会館・眉山など見所一杯



女性の基本練習



男性の基本練習



3回目の阿波踊り



本番への練習



## 市役所前演舞場



## 街角踊り





## 懇親会風景



糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会事務局

〒105-0003

<http://www.dm-net.co.jp/awa/>

東京都港区西新橋 2-8-11 第7 東洋海事ビル 8 階(株)創新社

TEL 03-5521-02881

FAX 03-5521-2883

担当：吉田ゆかり 草野佳壽子

## 糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会 会則

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会は、2000 年 8 月に第1回の阿波踊り大会を実行して以来、このイベントを継続して行っています。糖尿病患者様や医療スタッフ、また、ご家族や友人が、自由に参加し、交流を深める会にしたいと思います。

### 役員

会 長 西村登喜子(埼玉県上尾市)  
副会長 山田多佳子(徳島市 地元代表)  
副会長 依藤津世子(神戸市 医療スタッフ代表)  
顧 問 左東久史(徳島市「阿波写楽連」連長)  
事務局長 三角健二(糖尿病ネットワーク主催)

### 会則

#### 第一条(目的)

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会は、阿波踊りを通じて親睦・交流を深めることにより、糖尿病がある日常生活を楽しみ、豊かな人生を送るための会とする。

#### 第二条(会員)

正会員：糖尿病に関わりのある患者・家族・医療スタッフ及び、「合併症になら連」の趣旨に賛同し、参加費を納めた人。

賛助会員：「合併症になら連」の趣旨に賛同する団体・企業で、賛助会費を納めた人。

#### 第三条(運営)

「合併症になら連」は、選出された役員が中心になって企画し、構成会員が積極的に参加することにより運営する。

#### 第四条(役員)

「合併症になら連」には、次の役員を定め、任期を1年とし再任を妨げない。  
会長(1人)、副会長(2人)、プロジェクトスタッフ(若干名)。

#### 第五条(顧問)

「合併症になら連」の活動の趣旨に賛同し、助言・ご協力をいただく顧問を定める。

### 第六条(事務局)

「合併症になら連」の事務局は株式会社創新社内に置き、株式会社創新社は会の運営に必要な事務処理を代行する。

### 第七条(会費・会計年度)

1. 会員は「合併症になら連」に参加費を支払う。
2. 会計年度は、1月1日から12月31日とする。

### 第八条(「合併症になら連」の活動内容)

1. 阿波踊りへの参加(8月)
2. 交流パーティーの開催(8月)
3. 会報の発行(報告書)
4. その他 会の目的に沿った活動

### 第九条(会員の特典)

- 会報の受け取り(年1回)
- インターネットによる情報発信
- 「合併症になら連」が企画する各行事に参加できる

### 第十条(会則の改定)

当会則は、役員会あるいは事務局が必要と認めた時、随時改定することができる。改定された会則は速やかにインターネット上で公開し、会員に周知することとする。

### 附則

- 当会則は2001年1月1日に制定され、当日より施行する。
- 2012年9月改定。

糖尿病で「合併症になら連」阿波踊りの会のこれまでの記録は、  
糖尿病ネットワーク <http://www.dm-net.co.jp/awa/> でご覧いただけます。





糖尿病で合併症になら連